

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
M314M301		病態薬理学 (Clinical and Pathophysiological Pharmacology)					コース共通専門分野							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	1	3	医学部先進医療科学科	前期	木2	日本語		オムニバス						
担当教員	氏名 上村尚人、甲斐恵、和久田浩一、中村優佑													
	E-mail uemura@oita-u.ac.jp 内線 5952													
授業の概要	薬力学・薬物動態学などの薬理学的知識を習得する。さらに、主な疾患の成因・病態、薬による治療効果、用いる薬の作用（主作用・副作用）機序と副作用を理解し、各薬物の効果的な使用方法（与薬方法）について説明できることを目標とする。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 医薬品の開発プロセスについて説明できる。								○		○	○	○		
目標2 薬物動態・薬力学について概説できる								○		○				
目標3 薬物動態学的相互作用、薬力学的相互作用について例を挙げて説明できる。								○		○				
目標4 病態時における薬物動態について説明できる。								○		○				
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度（計10）								5		3	1	1		
授業の内容														
1 臨床薬理学の概念														
2 臨床研究と医薬品開発 臨床研究総論														
3 臨床研究と医薬品開発 臨床試験														
4 薬物作用と動態の基本（呼吸器系・循環器系・脳神経系薬剤、抗菌薬、抗悪性腫瘍薬）														
5 薬物動態学														
6 薬物代謝酵素とトランスポーター														
7 薬物相互作用														
8 薬物有害反応														
9 遺伝薬理学														
10 病態時における薬物動態 妊産婦														
11 病態時における薬物動態 新生児・小児														
12 病態時における薬物動態 高齢者														
13 病態時における薬物動態 腎障害（利尿薬）														
14 病態時における薬物動態 肝障害														
15 EBMの実践														
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認		○	一般的な講義に加え、学生自らが考える講義スタイルを取り入れている				工夫その他の						
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		各講義ごとに1h											
	事後学修		各講義ごとに1h											
	想定時間合計		30											
教科書	編集：一般社団法人 日本臨床薬理学会『臨床薬理学 第4版』医学書院 2017年 ISBN：978-4-260-02873-8													
参考書	参考書を指定しない													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験		90%	○	○	○	○						
	レポート		10%	○	○	○	○						
注意事項													
備考													
リンク													
			URL										
担当教員の 実務経験の有無			○										
教員の 実務経験			医師、研究者（トランスレーショナルリサーチ）										
実務経験を いかした教育内容			病態時における薬物動態について、医師としての実務経験をいかし、診察した患者さんの実際の症例をふまえて講義を行う。また、トランスレーショナルリサーチの研究経験をいかし、医薬品開発の事例を紹介する。										